



定住外国人子ども奨学金 News Letter

※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

夏の「奨学生交流会」を終えて

8月20日(日)、夏休みを満喫している(?)奨学生に集ってもらい「奨学生交流会」を実施しましたので、そのご報告をさせていただきます。

午前中は、「生きづらいこと」をテーマにこれまでの経験を奨学生に話してもらいました。そこで挙がったものとして、「言語の問題で親とコミュニケーションがとりづらい」「病院などで親の通訳をさせられるが、医療用語が難しく説明できない」「名前でからかわれる」「とっさに韓国語が出る」「歴史や政治の話になると学校の先生が『こう言っていいですか？合っていますか？』と聞いてくる」「初対面の人に外国人扱いされ、疎外感を感じる」「ベトナム語を話してと友達に言われる」などです。今回は、誰かが早急に解決策を提案するのではなく、思っていることを奨学生が打ち明け、お互いに共有できたことが良かったと思います。

その後昼食の時間になり、今年はレトルトカレーを食べました。人生初のレトルトカレーだった奨学生もおおり、良い経験になったようです。食後はお菓子を食べながら学校の話などで盛り上がり、奨学生同士久しぶりの再会を楽しんでいました。

交流会の後半は、Y委員による奨学生の面談と、奨学生が事前に書いてきた作文の修正をおこないました。面談では学校生活や卒業後の進路等を一人ずつ確認します。とくに3年生は受験に向けて本格的に勉強し始めており、勉強のアドバイスをもらえる良い機会になったのではないのでしょうか。

面談を待っている奨学生は、事務局スタッフと一緒に作文の修正をおこないます。奨学生には事前に作文を提出してもらい、事務局スタッフが日本語や論理構成などの添削をおこないます。その添削をもとに、交流会の日に奨学生に修正してもらいます。毎回、奨学生は面白い内容を書いてくれていますし、漢字や文語表現など回を重ねるごとに上達しています。そうした奨学生の成長を、以下の作文を通して感じて頂ければ幸いです。

(事務局スタッフ O.N)

奨学生からのメッセージ

今回は、自分でテーマを決めて作文を書いてもらいました。

N さん (10 期生)

「夏休みの過ごし方」

私の作文のテーマは夏休みの過ごし方についてです。私は日本で生まれたので、ブラジルでの夏休みの過ごし方はよく知りません。日本では学生は勉強に追われたり、外で遊んだり、部活動なんか力を入れたりしますね。

まず、ブラジルは日本と地球上でほとんど正反対の位置にあるので、日本とは反対の季節になります。そのため夏は日本の冬とほぼ同時期になり、ブラジルの夏休みはクリスマスや新年を迎えることになるようです。暑い日のクリスマスやお正月と考えるととても新鮮です。私は今年、この奨学金のイベントに参加したり、残念ながらあまり成績が良いと言える状態ではないので補習や塾、そして当然ながら宿題をして過ごす夏休みになりそうです。できれば、秋の体育大会へ向けて運動や練習をしたり、友達と遊ぶ機会を設けられればいいと思います。ブラジルの人たちは勉強する人もいるみたいですが、海に行く人が多いみたいです。

私の親はブラジルで生まれたのですが、現在五十代で、聞いた話も今とは変わっている部分もあると思います。日本の場合、四十年ほど前は、スマホやケータイ、ゲームやパソコンもなく、クーラーもなく、外で遊ぶというのが主な過ごし方だったようです。私の母は、サンパウロの田舎の方で生まれました。家は貧しい家庭だったと聞きました。そのため家事を手伝うことが多く、当時からあったお人形遊びなどはとうもろこしの葉を使って遊んでいたようです。他には、時間を見つけて遊ぶだけで、家の手伝いで忙しかったそうです。でもお金のある家庭は海外に旅行に行っていたそうです。

私もこの夏休みに時間を上手く使うことを覚えて、勉強と遊びを両立して、将来は、よい家庭をもって、せめて今のような幸せな夏休みを過ごせるようにしたいです。そして母が経験できなかった分も文化を経験して未来につなげていきたいです。

V さん (10 期生)

「高校生活」

私は、高校に入学してまだ 3 ヶ月と短いですが、思っていた以上に高校生活を楽しんでいます。勉強の面でも部活の面でもです。自分が大好きで得意である英語の授業だけでなく、普段の高校生活でもたくさん使えるので、とても楽しいです。私の高校では英語を使って話すのはいつでもどこでも良いという環境になっているので気軽に英語で話せます。そのことによって英語で話すスキルもアップできるし、文法を間違ったらすぐに直してくれる人がたくさんいらっしゃるの自分の英語は前より少しずつ良くなっていると感じています。英語だけではなく、他の教科も中学の時と違って自分たちで考えて意見を出すという時間が多いです。先生の教えてくれることを聞くだけでなく、自分の意見を言えるし、他の人の意見も聞けます。そして、それぞれの意見の違いで授業が豊かになりたくさん楽しめます。

部活の面は自分が思った以上に楽しいです。私は少林寺拳法部と課題研究をしている GSS というクラブ

に参加しています。私は少林寺拳法の方も GSS の方も初心者です。少林寺拳法を選んだ理由は学校の部活紹介の時に先輩方のパフォーマンスに引き込まれたからです。今まで、こんなに大好きでこんなに本気でしようと思うものが無かったです。私は部活を始めてから 2 ヶ月たってけがをしてしまいました。そのせいで 2 週間くらい部活を休まないといけなくなりました。その時、「いや、休みたくない、1 日も休みたくない」と不安でいっぱいになり、「部活をもうできなくなったらどうしよう」、と今まで何があっても前向きに考えられる私が初めてそういう風に考えました。その時に初めて自分は少林寺拳法が本当に好きだと分かりました。そう思うのは、部活の友達や先輩方と別れるのが怖いからだけではなく（もちろん、みんなとは一緒にいるだけで笑いが止まらなくなる程楽しく、みんなのことが好きですが）、なによりも少林寺拳法が大好きだからです。自分は少林寺拳法が出来なくなれば、こんなに不安になるのだと初めて気づきました。今ではけがも治り、大好きな少林寺拳法をとっても楽しんでます。

楽しんでだけでなく、高校に入学してから授業で勉強した事以外にもたくさん学びました。特に、責任をとることや時間とルールを守ることです。起こってしまったことはどうしても変えることができません。良いことであつたら別に何も無いけど、悪いことであつたら、そのことに文句を言っても何も変わらないので、その結果を受け取って良いことに直すしかないと学びました。

こうして私は、高校生活の最初の 3 ヶ月を最高に楽しく過ごすことができました。大変なのはこれからと思いますが、この 3 ヶ月のように、いずれも今まで以上に最高に、後悔がないように頑張りたいと思います。

K さん (10 期生)

「悩んでいることについて」

十何歳の今頃、将来のことについて、分からないことは山のようにあります。いつも先生や親に「今はいっぱい悩むべきだ」と言われますが、「悩むことがありすぎではないか」と最近ずっと思っています。学校のことや将来のことについて、いろんなことを考えています。

まず、学校のことについては、無事第一志望の高校に受かりましたが入学してからの勉強は思っていたより倍以上難しいです。得意な数学は二種類に分けられて、授業が進められています。前からずっと苦手な国語も、現代文と古典に分けられています。現代文の方は普段話している日本語に近いので、理解するのは簡単ではないものの、何とか理解はできます。毎週行っている漢字テストも十分勉強すれば「合」の判定がもらえます。でも古典の方は現代文よりだいぶ勉強しにくいです。古代の人が喋っている言葉は今の言葉より文法が難しいし、歴史的仮名使いを現代の言い方に変えないと文章の意味が理解できないことも沢山あります。今まで古典の小テストは工夫したけれどもなかなかいい点数を取ることはできませんでした。

二つ目に悩んでいることは、将来の進路についてです。今まで医師になろうと思っていましたが、学校で実施された適性診断では理学や工学に向いていると言われました。本当にそうかなあと思っています。親は文系を勧めていて、「将来は同時通訳になったらどうか」と言っています。私自身はこれとって趣味がないので、将来は自分の性格や勉強していることに適している仕事を見つけたいと思っています。今から仕事のことを考えるのはまだ早いかもしれませんが、十一月に文理の選択と選択科目選びが行われます。私は多分理系に進むと思いますが、理系に進んだ後のことはどうすればいいか全くわからなくて、すごく不安です。

高校生活は毎日楽しんでいます、もう大人とも言えるので、以前のように、好きなことをやりたい放題ではなく、計画を作りながら生活していこうと思います。多分こういう気持ちが大人になる第一歩だと思います。

K さん (9 期生)

「テロについて」

僕はテロについてはよく知らないけど、テロによってたくさんの人の命がなくなってしまうということは TV やインターネットを見て知りました。

テロというのは政治的目的の達成のために、破壊活動をすることです。最近では罪のない人を利用し、無差別に人々の尊い命を奪うという事件が多発しています。僕はなぜこのような悲惨なことが起きしまうのか、どうしたらこのような悲惨なことを防ぐことができるのかを考えています。

テロをする人は命の大切さを知らないと思います。命を大切にすることと考えてみると自爆テロということが非常に気になります。自爆テロについて調べたら自爆テロを行う人達の中には「この世に居場所がない」「自分に価値を見出せない」「生活が貧しい」など、将来に希望を見出せず、「絶望」している人たちがいて、その「絶望」の中にいるところをスカウトされ、「ここにあなたの居場所がある」「死によって英雄になれる」「家族の生活が保障される」などというふうに洗脳されていくのだ、と書いてありました。ということは、「この世に居場所がない」「自分に価値を見出せない」「生活が貧しい」と思っている段階で、自分の居場所、自分に対する価値、生活の保障について何らかの希望が見えていれば、「自爆テロ」にまで発展せずに済むかもしれない、と考えることができますと思います。

最近では世界の色々なところでテロがありました。その中でも僕が一番ひどいなと思ったのは、5月のマンチェスターでのアリアナ・グランデのコンサート中に起きた無差別テロです。死者 22 人とけが人が 59 人に上る大惨事となりました。なぜこういう有名人を狙うのかが不思議でなりません。日本も 2020 年に東京オリンピックがあるのでテロについての対策をしっかりして欲しいのと、これ以上テロで無駄な命をおとさないことが今の僕の願いです。

G さん (9 期生)

「私の望む幸せとは」

私の望む幸せとは、これから先も日本に住んで普通に穏やかに生活が出来ることです。私は、小学校二年生の時にベトナムから日本にやって来ました。ベトナムでの生活は、先に日本に難民としてやって来ていた親族からの支援で何とかなっていました、いつまでも頼ってばかりはいられず、私達子どものこれから先の教育のことを考えて日本で生活することになりました。日本に来た当初は、言葉もわからず学校生活にもなじめず不安な日々を送っていました。しかし、ベトナムに帰りたいとは思いませんでした。なぜなら、日本の方がベトナムより学校生活が楽しいものだったし、食べる物にも困らず生活が安定していたからです。その上、日本では頑張れば高校にも進学することができます。あのままベトナムにいたら、私はきっと高校には行けなかつたろうと思います。

私の夢は、看護師になって一人でも多くの人を救うことです。私の様な日本で暮らすベトナム人の人々の心の支えになりたいとずっと考えて来ました。ベトナムにいたらそんなことを考えもしなかつたでしょ

う。毎日生活するのに追われた日々を送っていたことでしょう。しかし、日本に来て夢が持てる様になりました。日本人にとっては、小さい時から夢を持つことは普通のことかもしれませんが、私にとっては、それは普通のことではなかったのです。私はずっと、日本人の普通に生活し普通に仕事をし安心して家族で暮らせることが羨ましいと思ってきました。

でも今は違います。高校に進学し、看護師になるという夢に向かって歩き出しています。高校を卒業し、看護専門学校に進学し、国家資格を取得し自分の思い描いてきた未来を自分の手でつかみ取ることができそうです。そのために、日々コツコツと勉強し、実力を身に付けていかなければならないと考えています。

看護師になって安定した収入を得て、家族みんなで穏やかに日々を送ることをめざして今を大切にがんばります。

P さん (9 期生)

「将来」

高校生になって今年で 2 年目です。高校 2 年生になった僕は多くのことに気づき、様々な不安を感じると共に、他人からの期待やプレッシャーがあり、少し生活に苦しみを感じることも多くなりました。来年は高校 3 年生になり、中学生のときとは大きく違った受験があります。まるで別の受験かのように自分の将来が決まる大学受験です。このようなことを考えるだけで未来が怖くなりしかたありません。将来したいこと、就きたい仕事ははっきりせず焦ってしまいます。将来したいこと、大学を決めて、それに向けて進む姿をみると自分が無理してしまうかも知れません。かと言って何もしなかったら目標ははっきりせず夏休みを過ごしてしまうだけだったかも知れません。そのような過ごし方だけは避けたくて、先生に勧められた大学のオープンキャンパスに行くことにしました。

今年の夏休みは久々に母国であるフィリピンに帰ることになりました。久々の帰国なので、フィリピンに住んでいる家族と電話することも増えました。自分と同じ年齢であるいとこ達と電話する機会もあり、いとこ達と将来について話すことができました。いとこ達は、したいことが決まっておき、どこに進学するかも決まって、勉強をがんばっていることがわかりました。これも含め、多くのことがプレッシャーであって、未来が怖いままでも高校生のままでいたいと思うようになりました。

このような出来事から将来について悩むことが増えました。勉強が不安であるからだけでなく、将来についての不安も多くなったからです。自分にしかできないことがわからず、アピールポイントがありません。中学生までは、自分にしかないことがありましたが、高校に入学してから、多くの人と出会い、自分の知る世界が広がりました。僕の周りには、個性のあるクラスメートたちがたくさんいます。そのような環境の中で、何か、みんなみたいにできることがないだろうかと考え始めました。これがきっかけとなり、生徒会など多くのことにチャレンジするようになりました。コンクールにも出られるようになんげっています。なにか自分のやりたいことがみつかるように、今、がんばっています。みんなのように目標ははっきりしていませんが、したいことをみつけることを今の目標にしています。これから夏休みに入りますが、その目標を達成したいと思います。

K さん (8 期生)

「大切さ」

僕は今年の 4 月から受験生になりました。

志望校は国立大学を目指しているのので、今年に入って本格的に受験に向けての勉強をしています。

高校 3 年生になってから朝補習というのを取っています。これは、センター対策の問題を主にする補習です。この朝補習を僕は週 5 で取っており、また補習が始まる時間が早いので、毎朝 6 時 30 分には家を出発しなければいけません。そのためお弁当を作ってくれている母に大変苦勞をさせて申し訳ない気持ちでいっぱいなのと、感謝の気持ちでいっぱいです。

1 年生、2 年生でも朝補習はありましたが、朝が弱いという理由で行きませんでした。3 年生になって最初の朝補習は朝が早くて辛かったです。徐々に慣れて起きるのも苦ではなくなりました。今思えば、1 年生、2 年生の時にも行けば良かったと思います。

朝補習に行くようになったといっても、すぐに結果が現れることはありません。元々理数科目が本当に苦手で、苦勞していますが、そんな僕を助けてくれるのは、学校の先生をはじめとする、クラスの友達や部活動の仲間です。最近同じ夢を持っている友達を見つけて、その子も同じように国公立大学を目指しているということで、お互いに切磋琢磨しながら、勉強で苦手なところがあれば教え合っています。

僕は受験生になって、良い友達を持ったなということを思います。先生はもちろんですが、やはり友達というのは偉大なもので、勉強の面やメンタルの面といった様々な面をサポートしてくれて、とても頼もしく思いました。弱音を吐いたときは、「一緒に頑張ろう」などと言ってくれる友達がいたり、勉強の仕方についても出来る子に聞いてアドバイスをもらい、自分のものにしたりしています。これはまさしく先生がおっしゃっていた通り、「受験は団体戦」ということを示しているにつくづく感じさせられます。本番では 1 人で受験しますが、団体としてしっかりとみんなとまとまって受験を乗り越えたいと思います。

まだまだ受験の道は長いですが、この 3 年生のメンバーで一生懸命頑張っていきます。

V さん (8 期生)

「獣医師について」

僕は王子動物園で働いている獣医師の方のお話を聞く機会があったので、それに参加しました。医師や看護師はなんとなく想像できると思いますが、獣医師と聞くとあまり仕事内容を知らない人の方が多いと思います。獣医師は、犬や猫だけでなく象やパンダ、ライオンなど動物一般に関わる仕事です。

仕事の一部を紹介したいと思います。例えば、象の場合、普段から触れ合わないとなかなか採血などをさせてもらえません。なので、世話係の人達と協力してまずは象の体ほぐしから始めます。そうすることで、象に信頼してもらえるようになるので、そこで初めて採血ができるようになります。象の皮膚はとても厚いので、耳の裏側から採血します。他にも尿から病気になっていないか調べます。獣医師の仕事の中で僕がおもしろいと思ったことは、カンガルーの赤ちゃんについてです。カンガルーは子どもを袋の中で育てますが、希に、子どもが袋から落ちたりします。その場で気がつけば、世話係の人が袋の中に戻すのですが、気がつかないと、カンガルーもたくさんいるので誰が親なのかわからなくなり動物園で育てることになります。人間の赤ちゃんと同じように、一定の温度に保つ機械の中で育てるのですが、カンガルーの赤ちゃんを安心させる工夫として、タオルで袋を作ったりします。ある程度大きくなれば、母カンガルーの様に、袋に入れて世話係の人がジャンプしながら散歩をするそうです。しかし大きくなるまでの 3 ~ 6 ヶ月間は交替しながら付きっきりで面倒を見るそうです。一つの命を育てることに、たくさんの方が関わっていて自分のことの様うれしくなったことを覚えています。

僕が獣医師の仕事の中で危険だと思ったことは、トラやライオンなどの肉食獣の治療についてです。まず、専門の方が麻酔を使い、眠らせます。治療中も麻酔をかけ続けるのですが、ライオンなどの肉食獣が治療中にすこし動いたりすると、獣医師など治療に関わる人がとてもびっくりするそうです。命懸けで命を救う仕事は、本当にすごいと思います。

もう一つ、驚いたことがあります。それは、獣医師という職業が狭き門であるということです。その理由は大学に入ることも難しく、仕事で直接動物に関わる人も少ないからです。また、その狭き門を通過した後も苦労は絶えません。例えば、動物園などで仕事ができる人数が少なかったり、大学の教科書に載っていない多くの生き物の治療を担当しなければいけなかったりするそうです。

僕は獣医師の先生のお話を聞いて、もっと視野を広く持って命について改めて考える必要があるなと思いました。獣医師のお話はなかなか聞くことができないと思いますが、これを読んでくださっているみなさんにも、知ってもらいたくて書きました。僕も様々な仕事についての理解を深めていきたいです。

Dさん (8期生)

「3年間部活をして学んだこと」

私は高校3年生の夏まで、カヌー部に所属していました。とても厳しくて、しんどくて、精神的、肉体的にとってもきつい部活でした。でも、それ以上に、楽しくて、充実した思い出がたくさん出来ました。そしてこれからの人生に役立つことを学びました。

私がカヌー部に入部した理由は、何かをちゃんと最後までやり通したかったからです。また、部活の部員がおもしろい人がいっぱいいて、楽しそうだったので入りました。最初は体力的にしんどくて、家に帰ってもすぐに寝ていたので、部活と勉強の両立はできませんでした。でも部活をしているうちは、空いている時間に勉強したり、少し余裕が出来たりして、自分なりに勉強を頑張りました。部活で、時間の使い方を学びました。

もう一つ学んだことは、人間関係の大切さです。そして、常に感謝の気持ちをもつことの大事さです。カヌーは私一人でやっていけるものではありません。指導して下さる先生がいて、そして、部活や学校生活について色々教えて下さる先輩がいて、私たちの安全を見守る施設の方々、面倒を見てくれる保護者や、しんどい練習と一緒に取り組む仲間がいます。人は一人では生きていけません。だから日々から感謝の気持ちを持って周りの人に接することが大事だと思いました。

最後に学んだことは、しんどくても、つらくても、最後まであきらめずにやりとげることの大切さです。カヌー部ではしんどいことがたくさんありました。1年の頃は上手く乗れなくて、毎日転覆したりして、先生に毎回怒られて、家ではよく泣いていました。2年では幹部交代をして、新しい幹部の人と他の部員の間で意見が合わなかったせいで、毎日のように誰かがけんかをして、たくさんぶつかりました。試合もテスト期間とよくかぶってしまい、部活と勉強の両立ができなくて、ストレスを感じました。本当にこの2年半はしんどいことだらけでした。でも最後まで続けて、本当に良かったと思います。ここで得られた達成感他のものには比べられません。これから生きていく上でたくさんの壁にぶつかると思います。その時はこのカヌー部で過ごした日々を思い出したら、なんとかなりそうです。自分でなんとかしようと思って行動すれば、なんとかなります。これから強く生きていこうと思います。